

# 第 43 回山口県学校環境衛生研究大会第 3 課題

報告者：田村有基

## 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、くすり教育

### ①「小学校における動画を使った薬物乱用防止教室の実践」

山口県学校薬剤師会 監事 西村 正広

小学校における「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」では薬剤師の仕事内容を子供たちに伝えながら、動画やクイズを使いながら興味をひくように進めている。さらに、薬物・たばこを誘われた際に断るためのロールプレイも行っている。

- ・クイズ① 病気になった時に薬は誰からもらいますか？(答え：医者や薬剤師)  
病気になった時は医者にみてもらい、薬剤師から薬をもらう。薬局で薬を買う事もある。
- ・クイズ② 薬は何で飲むのがよいでしょう？(答え：水)  
牛乳やお茶などで飲むと薬の効き目が悪くなり、弱くなることもある。
- ・クイズ③ 薬を飲んでも病気が良くならなるときはどうしますか？(答え：相談する)  
自己判断で2倍量服用、中止するのではなく医者や薬剤師に相談する。
- ・コカイン、シンナー、ヘロイン、大麻、LSD の作用や依存性の説明
- ・STOP!薬物乱用～断る勇気～(東京都)、DRUGS KILL TEENS (公共広告機構)の動画の紹介
- ・たばこや薬物を進められた際のロールプレイの実践  
①話題を変える、②壊れたレコード作戦、③だって・・・でも・・・どうして 3d 作戦  
④逃げる

### ②「薬物乱用防止教育のすすめ」

下関学校薬剤師部会 部会長 重岡伸一

薬物乱用防止教育を受けたか受けなかったかでその後の人生が分かれる。薬の種類や体の免疫力、体内動態、アルコールやタバコの影響等、スライドや映像等を用いて中学生に興味をひくように授業をすすめていく。

- ・芸能界での薬物汚染について
- ・薬の種類(点眼・消毒薬・湿布・注射・座薬・粉薬・カプセル・シロップ等)について

- ・薬の体内動態と薬理作用について
- ・アルコールの脳や肝臓への影響と凝固作用について
- ・たばこの煙の健康被害とパッケージの警告表示、コストについて
- ・シンナーの体への影響と有害性について
- ・覚せい剤、大麻、MDMA、LSD、マジックマッシュルーム、コカインについて
- ・規則正しい生活を送り、自分に自信を持つことでタバコ・お酒・薬物の誘惑を絶つ

### ③「くすり教育の進め方」

周防大島町立大島中学校 教諭 平田 隆浩

薬物乱用防止ダメ・ゼッタイ防止教室は生徒指導の担当として関わっており非行防止の面が大きいと感じていたが、保健の授業で「くすり教育」を推進することで双方の効果が上がるものと考えている。無料サンプル（タケダ薬品）を使用して授業を進めているが、今後は教材をバージョンアップしながら養護教諭や学校医との連携を充実させていきたいと考えている。

- ・無料サンプルの活用（タケダ薬品）から無料サンプル教材が届く。現状にふさわしい教材で生徒の興味関心が高く説明や指導にも効果的。
- ・セルフメディケーションのパンフレット、症状別に使い分けする市販薬のパッケージ見本は生徒の日常に即した教材として有効に活用できている。
- ・市販薬に限らず処方薬でも、使用者や用量を誤ると薬物乱用に繋がるという指導が受け入れやすいと感じている。

### 指導助言

島根県学校薬剤師部会 部会長 加藤圭二

山口県学校薬剤師会 会長 沖田敏宣